

決算の状況について

- ◆令和元年度の実質収支は、昨年度から1.5億円改善し10.3億円。
- ◆主な増加要因は、下水道事業会計への繰出金の減（1.0億円）、固定資産税等市税収入の増（0.6億円）など。
- ◆実質収支10.3億円の使途については、コロナ対策や、市税・使用料などの減収等への対応を優先。
(基金への積立については、通常、9月補正で検討するところであるが、年度末に向けて検討。)

「決算の概要」

(単位：千円)

年度	①歳入	②歳出	③形式収支 (①-②)	④繰越すべき 財 源	⑤実質収支 (③-④)	⑥単年度 収 支 (前年度実質収支 との差額)
R01	18,743,315	17,673,625	1,069,690	36,133	1,033,557	150,934
H30	19,273,341	18,326,773	946,568	63,945	882,623	329,676
H29	18,497,282	17,802,135	695,147	142,200	552,947	395,873

(実質収支の主な増加要因) ※予算対比

- ①下水道事業会計への繰出金の減 +1.0億円
- ②固定資産税等市税収入の増 +0.6億円
- ③除雪費用の減 +0.4億円

実質収支10.3億円のうち2.4億円(9月1日時点。前年同期1.4億円)を、前年度からの繰越金として本年度予算に計上済

(参考) 基金残高の推移

(単位：千円)

年度	基金残高	うち財政調整基金残高 (R6末目標額10億円)
R01	1,532,817	462,376
H30	1,328,190	259,344
H29	1,723,872	259,318